

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成28年3月10日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ セトチョウカンコウガイ ド マ ッ プ サクセイジツコウイインカイ
団体名 瀬戸町観光ガイドマップ作成実行委員会
所在地 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
フリガナ [REDACTED]
代表者氏名 [REDACTED]

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ☒ 地域課題解決 ☐ 地域課題掘り起し ☐ 地域計画づくり ☐ 地域課題解決型の地域組織づくり ☐ その他
事業名	ふるさとの歴史をつなぐ看板整備事業
事業実施区域 (小学校区)	岡山市東区 瀬戸中学校区
業 実 施 内 容	瀬戸町の歴史遺産や観光名所の案内看板を作成・設置した。作成・設置には、事前に各町内会に調整したのち、町内会や地元協力者および地元の中学校と高等学校とともに連携して行った。 <看板等作成概要> ① 国史跡万富東大寺瓦窯跡：万富地区（実行委員会が作成・設置） 資料ポストの設置 レプリカ瓦の説明文の設置 ② 三谷公園：南方地区（瀬戸高校の美術部と書道部が作成、実行委員会が設置） 資料ポストの設置 案内板2個(美術部)と説明板2個(書道部・外部)の設置 ③ 瀬戸アユモドキの里：南方地区(瀬戸中学校の美術部が作成、実行委員会が設置) アユモドキ産卵場の表示板4個の設置 ④ 熊山登山道：弓削地区（原図は瀬戸南高校、レイアウトは地元画家、実行委員会が設置） 資料ポストの設置 登山道案内看板の設置 ⑤ 肩脊城と尾原井の井戸：肩脊地区（肩脊町内会で作成・設置） 肩脊城の説明板、尾原井の井戸の説明板の設置 ⑥ 千種山遺跡：鍛冶屋地区（瀬戸高校の書道部が作成、鍛冶屋町内会が設置） 千種山遺跡の標柱の設置 ⑦ 築領八幡宮：下地区（下町内会が作成・設置） 築領八幡宮の案内板の設置 ⑧ 陣場山遺跡：旭ヶ丘地区（実行委員会が作成・設置） 陣場山遺跡公園に説明看板設置 *資料ポスト（3個）は、地元協力者が作成・現地設置を行った。 *看板業者は、原図をもとに看板の絵付け、耐光加工をしてもらった。

事業目的とその達成状況と効果	瀬戸町には、多くの歴史遺産や観光名所があり地域の人々によって守り伝えられています。この歴史的財産を後世の人々に伝承していくことが、郷土愛を育て、ひいては地域の活性化につながってくるものと思います。 昨年度（平成26年度）に「瀬戸町観光ガイドブック エンジョイ瀬戸町！」を作成し、瀬戸町の自然や文化遺産、特産品の情報発信を行い、瀬戸町を知ってもらう取り組みを推進してきました。しかし、これらの歴史的な遺産や観光名所の案内看板・標識が未整備なところが多くあり、折角、訪れた人々が戸惑う状況でありました。 そこで、地元の方々に瀬戸町の遺産を再認識していただくのと、子ども達に地域の歴史に興味を持ってもらい、これらを伝承していくため、町内会、中学生や高校生に積極的な参加を呼びかけて看板整備の事業を行った。 ○達成状況と効果 町内会および地元の中学校と高等学校とともに連携して看板整備を行い、地域の遺産や名所の再発見や伝承、郷土愛の育成を行うことができた。 案内板や説明板ができたため、現地を訪れた方には、現地案内や由来などを知ることができると好評である。整備を機会に地元の方も現地に来ていただいている。 整備看板の管理は、地元町内会にお願いしており、地元での見学会などで活用してもらえるようである。 今回の整備した場所以外でも、瀬戸町総合運動公園内「ささやきの壁」案内板など岡山市の管理管轄のところは関係部署に連絡して対応してもらった。
企画などの工夫と情報公開	町内の歴史的財産を知ってもらい、地元で育んで伝承していただきたいので、できるかぎり、町内会および地元協力者、地元の中学校と高等学校と連携して看板整備を進めていった。地元や子ども達が看板の作成と設置までするように努め、多くはそれを実現できた。このことにより、郷土の再確認と愛着を育むことができた。 また、事業の進行に伴い、看板設置作業などを Oni ビジョン等の報道関係者に取材してもらい、地元をはじめ多くの方に看板整備の取り組みを知っていただくことができた。

次年度計画	地元町内会との調整の中で、今回整備した所以外でも整備が必要なところがあった。調整合議に至らない場合や人的な不足などから今回実施できなかった。次年度以降に再度調整等を行えるようにしていきたい。 この看板整備をきっかけに地元町内会で活用してもらえるようお願いしている。また、今後の補修や新規整備などの体制づくりを行い、今回の看板整備事業の成果が末永く続くよう取り組んでいきたい。
事業実施者としての評価・感想など	瀬戸町観光文化協会（瀬戸町観光ガイドマップ作成実行委員会）では、瀬戸町の遺産や名所の再発見や伝承、郷土愛の育成を行うことにより、地域の活性化につながるものと考えています。 第1版の「瀬戸町観光ガイドマップ お宝再発見」、第2版の「瀬戸町観光ガイドブック エンジョイ瀬戸町！」を作成・配布し、瀬戸町の自然や文化遺産、特産品の情報発信を行いました。 これらは、好評の内に人々の興味や関心が深まり、その後の課題として、未整備の案内看板・標識が浮上してきました。そこで、看板整備事業に取り組むことにいたしました。 看板整備を町内会および地元協力者、地元の中学校と高等学校と連携して進めることにより、郷土の魅力の再確認と愛着を育むことができたと思います。特に中高生の参加は、郷土の歴史に興味を持つ良い機会になったと思います。 また、中高生の作成した看板など魅力あるものが作成でき、地元や訪れた人々に活用していただけるものと自負しています。 今後もこれらの「ふるさと再発見」活動を進め、瀬戸町に住む人々が、誇りを持てる郷土を見つけるきっかけになって欲しいと願っています。

■収 支 決 算 書

◆収 入

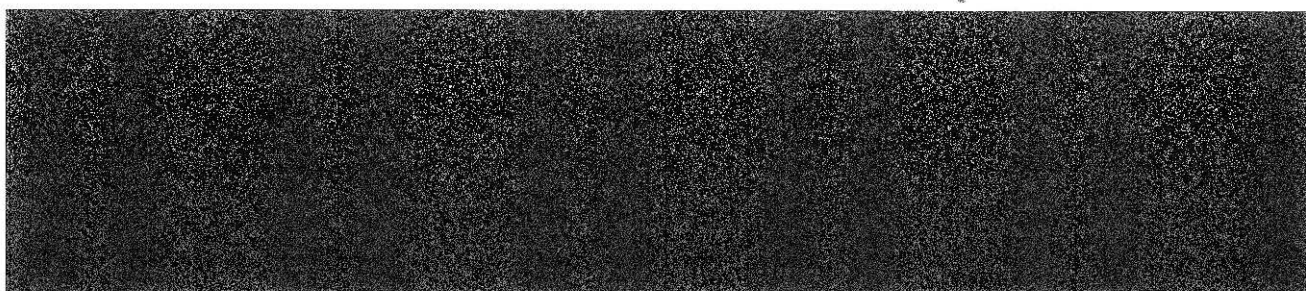
単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	200,000	165,200	区づくり推進事業補助金
負担金	195,000	160,288	瀬戸町観光文化協会
寄付金	5,000	5,000	瀬戸中学校美術部
雑収入		13	金利
計	400,000	330,501	

◆支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容 (必ず記載してください)
消耗品費	15,000	24,603	用紙、プリンターインク等
食糧費	20,000	19,678	会議飲料等
印刷製本費	20,000	2,398	コピー代等
通信運搬費	5,000	216	払込手数料
原材料費	195,000	114,614	看板材料、ペンキ等
委託料	115,000	120,992	学校等 5か所
報償費(謝礼)	30,000	48,000	手づくり作業者等
計	400,000	330,501	



事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
瀬戸中学校の美術部	看板図案の作成
瀬戸高校の美術部	看板図案の作成
瀬戸高校の書道部	説明看板や標柱の文字記載
瀬戸南高校	看板原画の作成
瀬戸町内の各町内会	看板整備の調整・看板作成・看板設置
(旭ヶ丘、大内、肩脊、鍛冶屋、観音寺、 瀬戸、下、二日市、南方、弓削、)	

■事業実施経過

年 月 日	内 容
平成 27 年 3 月	看板整備事業の事務局案の検討
平成 27 年 4 月	各町内会へ看板整備の要望等の調査
平成 27 年 5 月 26 日	実行委員会会議(第1回)
平成 27 年 6 月 19 日	瀬戸中学校、瀬戸高校、瀬戸南高校に看板の作成を依頼
平成 27 年 6 月 22 日	実行委員会会議(第2回)
平成 27 年 7 月 16 日	瀬戸中学校美術部を瀬戸アユモドキの里(南方沖の原)へ案内説明
〃	瀬戸南高校を瀬戸アユモドキの里(南方沖の原)と弓削八幡宮熊山
〃	登山口・熊山遺跡等へ案内説明
平成 27 年 7 月 21 日	実行委員会会議(第3回)
平成 27 年 8 月 25 日	実行委員会会議(第4回)
平成 27 年 10 月 6 日	実行委員会会議(第5回)
平成 27 年 10 月 15 日	瀬戸高校美術部と書道部を三谷公園へ案内説明
平成 27 年 10 月 26 日	実行委員会会議(第6回)
平成 27 年 12 月 1 日	実行委員会会議(第7回)
平成 28 年 1 月 7 日	実行委員会会議(第8回)
平成 28 年 1 月 28 日	実行委員会会議(第9回)
平成 28 年 2 月 8 日	瀬戸アユモドキの里看板設置 Oni ビジョン取材
平成 28 年 2 月 15 日	三谷公園の資料ポストと看板設置 Oni ビジョン取材
平成 28 年 2 月 16 日	熊山登山口の資料ポストと看板設置
〃	万富東大寺瓦窯跡の資料ポスト設置
平成 28 年 2 月 21 日	千種山遺跡の標柱設置
平成 28 年 2 月 23 日	肩脊城と尾原井の井戸の看板設置
〃	実行委員会会議(第 10 回)
平成 28 年 2 月 24 日	陣場山遺跡の看板設置
平成 28 年 3 月 4 日	実行委員会会議(第 11 回)、この会議を最終回にする。 各町内会に看板整備の状況報告(回覧板チラシ) 監査、報告書の提出で実行委員会を解散する。